



はい
浄福寺です。

浄福寺
門徒会発行
☎ (025) 536-2532
FAX (025) 536-2674
✉ jofukuji@alpha.ocn.ne.jp

浄福寺先代住職教順13回忌並びに

先々代坊守寿子3回忌法要の参拝の御礼(住職)

昨年9月10日(日)に、川田の源正寺様御導師のもと、たくさんの参拝の皆様と一緒に、二人の法要を勤めさせて頂きました。

本来ならば、昨年の寺報で御礼を述べるところですが、都合により、改めてこの場で感謝し、御礼申し上げる次第です。ありがとうございます。

先代住職の13回忌には1年早かったのですが、前坊守武子の体調を考慮して一緒に勤めました。あれから1年経ちましたが、武子は、食欲があり、体調は問題ないのですが、歩行が困難になり、脳梗塞による認知症も少し進んだようです。

法要の前日に、家族そろって米寿のお祝いも1年早くしたところ、大変喜んでくれましたので、昨年間に済ませて本当に良かったと思っています。

また、こういう機会がないと、子供達や孫達に会うこともなかなかできません。娘達もすっかり一児の母になり、長男は本願寺で就職し、お給料をいただくようになりました。そんな近況報告を聞けるのも、この法要のおかげと思っています。「亡き人を偲ぶだけでは仏事とは言えない。亡き人への慕情を通して自己のあり方を見直すとき愛縁が転じて仏縁となる。」

法事や葬儀は仏事である。仏法を聞き、仏法に照らして我が身を見つめるとき、初めて仏になる。「あなたの生き方を見つめてみなさい。」と亡き人がしつらえて下さった仏縁なのです。人は忘れることによつて過ちを繰り返します。けれども法事を勤めることによって、仏さまの言葉に出遇います。闇という字は、音(言葉)が閉ざされると闇に陥ってしまうことを意味しますから、仏さまの言葉に出遇わなければ、私達は闇の中で迷いの人生を送るしかありません。

法事は本当に大切な行事です。勤めなければ、そこで先祖や孫たちとの繋がりが立ち消えてしまいます。皆様方も法事をあまり大げさに考えないで、是非勤めるようにして下さい。それがいのちのバトンタッチです。

合掌



二河白道



「二河白道」とは、善導大師の『観無量寿経疏』に説かれている喩え話で、向こう岸は西方浄土、こちら岸は私たちのこの世の世界を示しています。

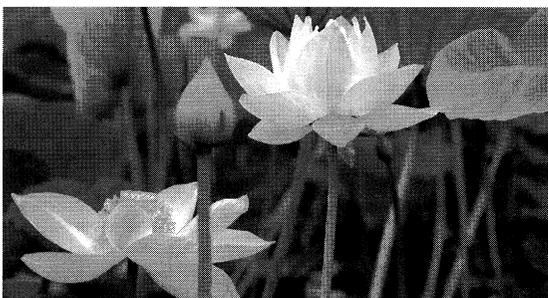
仏教語の「二河」は南の火の川と、北の水の川を示しています。そして、火の川は怒り、水の川はむさぼる心を象徴しています。

一人の旅人が、後から飢えた獣や殺人鬼に追われ、行く手の左には猛火が覆い、右には荒れ狂う水の川がせまる所にさしかかると、その境目にわずか道幅数十センチの白道が見える。戻れば殺される、進めば水の川、火の川に飲み込まれ絶体絶命。とその時、向こう岸よりかすかに自分を呼ぶ声が。ふと見上げれば阿弥陀様。「私を一心に念じ、こちらに来なさい。必ずあなたを護ります。」との呼び声。後ろからは「心を定め、行きなさい。決して災いがありません。留まれば死を待つのみです。」との声。振り返ればお釈迦様。一心に白道を進むと、ついにはお浄土にたどり着いたというお話です。煩惱にまみれた私達でも、お念仏一筋に日々勤めれば、悟りの彼岸に至ることができるということを説いています。

このお話に出てくる旅人とは、私達のことです。また、飢えた獣や殺人鬼は、無常を現わしています。無常とは、形あるものは常に変化し、どんな人でも病気になり、老いて死んでいかねばならないということです。そして、荒れ狂う水は、私達の貪りや執着心を、火の川は、怒りや憎しみをそれぞれ現わしています。貪りの欲が深ければ深いほど思いどおりにならない感情がでてきて、そこに怒りが起こってくるということです。

また、白道は、本当は広くとても丈夫で安全な道ですが、何故ここでは数十センチ幅なのかというと、それは阿弥陀様の呼び声に気付かずに、ほとんどの人が欲に溺れ、怒りに満ち、短く儂く生涯を終えてしまうことを強く戒めているからです。

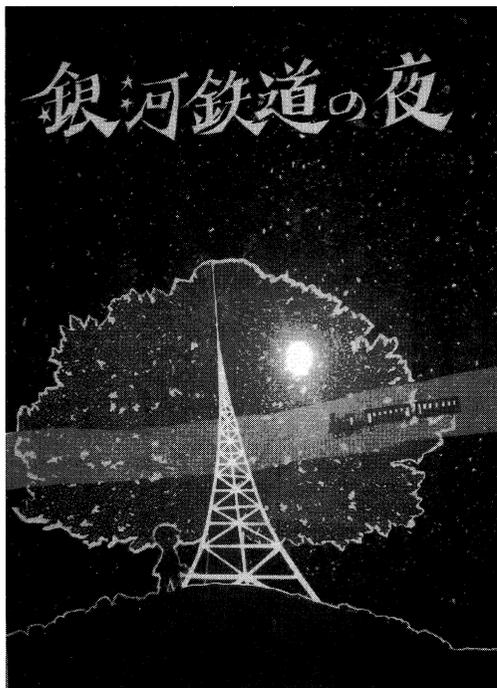
この図の中には僧侶の姿が描かれています。法然聖人と親鸞聖人に似ていますが、お二人だけでなく、私達の先人達と受けとめることもできます。迷っている私達に、いつでも阿弥陀様の呼び声（光）が届いており、その呼び声を聞いて、その道をお浄土に向かって歩みなさいといつも呼びかけてくれているお姿が描かれているのです。



撮影一大日方義久さん(7区)

私達は娑婆の縁尽きたときに死ぬのではなく、お浄土に往生します。往生とは往き生まれることで、仏さまとなって生きるということです(往相回向)。そして仏さまになると、直ちにこの世に還ってきて、今生きている私達に寄り添って下さるということです(還相回向)。また、お浄土は懐かしい人達とまた会える世界(俱会一処)です。そんなお浄土があるから私たちは安心して生きてゆけるのです。

住職



山川ひろしさんの作品

中門前の池
田庸子さん
(あけび細工)、
小猿屋新田の
内山輝義さん
(竹細工)、大
潟区の坂井亮
円さん(さを
り織り)、佐
内町の竹内
彰さん(つる
かご細工)の

第1回

『手しごと・手づくり 柿崎・上越作品展』

8月17日～20日

注目集めた浄福寺での開催 460名鑑賞、文化を通して柿崎をアピール

「上越市の北端・柿崎を文化を通してアピールしよう」と友人の松崎誠也さん(荻谷)・原孝一さん(角取)と一緒に、『手しごと・手づくり 柿崎・上越作品展』を計画、冬に実行委員会を立ち上げました。さて「会場はどこに?」と考えた結果、「昔はお寺が地域コミュニティの中心であった」ことを思い出し、各種講演会やコンサートを開催し、『地域に開かれたお寺』をめざしている浄福寺住職様にお願したところ、快く引き受けていただきました。

この『作品展』には柿崎区から米山寺の奥田広美さん(押し花)、三区の長井彰子さん(ポーセラーツ)、荻谷の松崎誠也さん(木工作品)、八区の山川ひろしさん(切り絵)、の4名、柿崎区外から吉川区の五十嵐夷廣さん(木彫り)、

5名、計9名の作家から出品していただきました。

お盆過ぎの8月17日(金)～20日(月)の4日間『作品展』を開催したところ、柿崎区内外から460名余のみなさんが訪れ、お寺の本堂という落ち着いた雰囲気の中で、さまざまなジャンルの作品をこころゆくまで鑑賞されていた姿が印象に残っています。

また、今回の『作品展』は上越タイムス、新潟日報、上越ケーブルビジョンなどで大きく紹介されたことから、新潟市、三条市、十日町市、長岡市、南魚沼市、柏崎市、糸魚川市、妙高市などから40名余、さらにお盆の帰省客と思われる県外からも20名近くの方が訪れています。

あわせて浄福寺で開催されたことからラジオのFM上越の現地生中継がなされ、『広報上越』の取材も受け注目をあびました。

今回の『手しごと・手づくり展』を通して、『文化のまち柿崎』のPRに一定の貢献ができたのではないかと考え、来年度の開催に向けて心の準備をしております。

会場を提供していただき、実質的に共催の役を担っていただきました浄福寺様に感謝申し上げます。

柿崎区角取 角張寛美



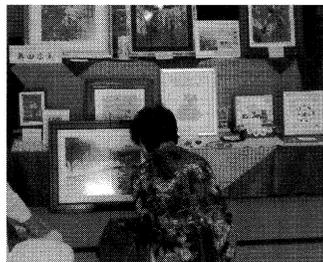
長井彰子さんの作品



山川ひろしさんの作品



松崎誠也さんの作品



奥田広美さんの作品

清掃奉仕の御礼と次回のお願



6月3日(日)の報恩講お引き上げ清掃奉仕には、常任委員と馬正面・桃園・直海浜・三ツ屋浜・法音寺・金谷・東谷内・雁海・山谷・下中山の皆様方から参加していただきました。今年は大雪の裏の折れた竹の処分や落ち葉の処分に時間がかかりましたが、幸いに参加していただいた方が、手際よく片付けて下さり、本当に助かりました。また、屋内ではお内陣の仏具のお磨きや庫裏の窓ふきなどの仕事もしていただき、大変きれいになりました。

いつも清々しい気持ちで報恩講をお迎えることが出来ますのも、皆様のおかげです。心より感謝し、御礼申し上げます。今回は4回目ということで、3回参加していただいた方に、本願寺から取り寄せた記念品を贈らせて頂きました。

暮れのお煤払い清掃奉仕は、12月9日(日)に出羽区・曙区・1区・2区の皆様方にお願する予定です。何卒よろしくお願申し上げます。

第60回有縁講のご案内

今年も有縁講に参加致します。有縁講は『ご法話で心の垢を流し、温泉で身体を洗う』というスローガンのもと、ゆっくりとご法話を聞いて、いい温泉に入り、おいしいご馳走をいただいて、歌や踊り、お芝居を観て、共に楽しいひと時を過ごします。今年60周年を記念して、赤倉ホテルより記念品が贈られるということです。

この有縁講が続いているのも、赤倉ホテルのご尽力とご協力があつてこそです。そのお心に添えて、私達も大勢参加して下さいます有縁講を盛り上げていきましょう。どうぞお誘いあわせて参加して下さい。



期日 平成30年11月27日(火)~28日(水)
費用 15,000円
持ち物 27日の昼食 お念珠 着替え 洗面道具 保険証 常備薬など
集合場所 27日柿崎地区公民館前10時出発 帰りは28日柿崎着16時頃 普願寺様(須坂市)参拝、道の駅オアシスおぶせで買物予定
宿泊場所 赤倉ホテル(TEL 0255-87-2001)
申込み切 10月30日
定員 45名

ご案内

第4回「お寺でヨーガ」のご案内

「お寺でヨーガ」を下記の日時に開催します。ボケないためのヨーガ、転ばないためのヨーガの他に、美容と長生きするための鼻呼吸の仕方などを日本ヨーガ指導員で映画監督の森田恵子様より楽しく教えて頂きます。

どうぞお友達を誘っていらして下さい。
日時 10月18日(木) 15時~16時30分
会場 浄福寺本堂
持ち物 参加費500円とヨガマット、または大きめのタオルなど

第6回「チャリティーコンサート」浄福寺のご案内

昨年に引き続き、今年もまた「チャリティーコンサート」を開催いたします。素敵な演奏を楽しめます。

参加費は無料ですが、あちこちで起きています災害の復興支援に役立てたいと思ひ、募金箱を設置しますのでご協力をお願い致します。どなたでもお気軽に聴きにいらして下さい。大勢ご参加下されば演奏する方々の張り合いにもなりますし、浄福寺で開催して良かったと思つて下さいます。どうぞお誘い合わせてお越しいただきますようお願い致します。

日時 11月18日(日) 13時30分開場 14時開演
会場 浄福寺本堂
出演者 ブレメン、H&F、RSG、楡井沙弥・太田綾希
曲目 いつも何度でもさよなら模様さくら旅人よ他

後記 今後共皆様方からの本誌へのご要望・ご意見、そしてご投稿をお気軽にお寄せ下さいませ願ひ申し上げます。
編集 寺報編集委員会
お問い合わせは 浄福寺 ☎0255-5361-2532
FAX 0255-5361-2674
印刷 (株)小田